

多世代が一つになって創り上げる
 カラフルなフラッグアートが彩る町



玉川学園町内会

The Machibito — Chikuni Ichin

東日本大震災から5年、阪神・淡路大震災から21年が経った。この2つの震災でクロスアップされるようになった町内会・自治会の存在。その後の調査で町内会・自治会がしっかりと機能していることが救急や復旧に大きく影響していたという報告もある。町田市には現在、309の町内会・自治会があるが、その中で最多の約四千世帯が加入する、最大の町内会が玉川学園町内会だ。田河水泡や遠藤周作など古くから多くの文化人が住む文教地区で、そのエリアは小田急線を挟み南北に広がっている。そんな町田市最大の町内会の取り組みが今、注目されている。

玉川 学園町内会の特徴的な活動はフラッグアート、地域資源回収、玉ちゃんバス、地区社会福祉協議会の4つ。中には他の地域で行っていない独自の取り組みもある。地元の小中学校と玉川大学、町内会、商店会が協力して行うフラッグアートは、元々2009年の80周年記念事業として企画された。だが、その後も町田市の補助を受けながら、地域に根差し、そして大きな拡がりを見せた。現在では町内会、商店会の資金で「フラッグアート実行委員会」が堅実な運営を行っている。

ような世代まで、多世代が一つになって協力し合い、取り組んでいるということなんです。そう語るのには、立ち上げ当初から中心的役割を担ってきた前野副会長だ。80周年の祝賀イベントとして1回で終わるはずだったフラッグアート企画はその後、参加する学校も増え、今では玉川大学のボランティア指導で子ども達が作ったカラフルなフラッグが、街を彩っている。

丘 陵地で高齢者が多く在住する玉川学園に今や欠かせない「玉ちゃんバス」も、玉川学園町内会がバス事業者に働きかけ実現したものだ。町田市と玉川学園コミュニティバス推進委員会、小田急バスの三者が協力し、2005年の春から試験運行を行い、翌年に正式運行となった。黄色ボディに地元ゆかりの漫画家みっしちかこ氏のイラストが描かれた可愛い「玉ちゃんバス」の年間乗車人員は約60万人、これまでに北ルート、東ルートを合わせて累計600万人を超えており、さらに今年からは南ルートの運航も開始され、玉川学園の大切な足となっている。



7 年前には地域として一番最初に独自の「地区社会福祉協議会」を立ち上げたエリアでもある。



正・副会長は5人。写真は会長の松香 光夫さん



副会長の前野 紀夫さん



副会長の大山 憲一さん

福祉や地域の繋がりとといった意識が非常に高く、住みよいまちづくりへ地域がタッグを組んで積極的に取り組んでいる。戦前の80余年前、町が発足した当時の旺盛な開拓者魂は脈々と受け継がれている。

A 小学生を指導するのは玉川大学のボランティア
 B 恵田川沿いに飾られたフラッグアート
 C 路線バスの走らない玉川学園エリアを走る玉ちゃんバス

加入に関するお問い合わせ 町田市町内会・自治会連合会 042-722-4262